

2026

1

JAN.

TACHIKAWA HOSPITAL

NEWS NO. 86

2▶ 新年のご挨拶

4▶ 各診療科部長
ご挨拶・紹介

18▶ 懇話会報告



立川病院 だより



病院外観

Greeting



国家公務員共済組合連合会
立川病院 病院長
片井 均

ご挨拶

明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

連携医療機関および福祉施設の先生方におかれましては、平素より格別のご厚情とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆様のお力添えのもと、立川病院は無事に新年を迎えることができました。

2025年は、医療界にとって極めて厳しい一年となりました。全国の多くの医療機関が赤字に陥り、経営の危機に直面しています。薬価、診療材料、医療機器などの価格高騰、人件費の上昇、光熱費の負担増などが重なる一方で、診療報酬の十分な引き上げがなされていない現状が、その背景にあります。医療の質を維持しつつ経営の安定を図ることは、全国的な課題となっています。

高市早苗首相は、昨年、医療機関の7割が赤字という現状に触れ、「私たちの安心・安全に関わる大切なインフラが失われるかもしれない」との懸念を表明し、診療報酬改定を待たずに経営・待遇改善につながる補助金を前倒しで支給する方針を打ち出しました。2025年度補正予算案で、医療・介護分野への主な支援策として、以下のような取り組みが示されました。

- －他業種の賃上げ傾向を踏まえた医療・介護職員の待遇改善
- －食費・燃料費など診療・介護に必要な資材費や、医療事務・検査等の委託費高騰への対応
- －救急医療・周産期医療体制の継続に向けた施設整備
- －出産・妊婦健診・小児医療の維持が困難な地域の医療機関への支援

これらの施策は、地域医療を担う私たちにとって大きな希望であり、今後の制度設計に大いに期待するところです。この立川病院だよりがお手元に届く頃には、いくつかの施策がすでに実現していることを願っています。

当院は、2025年に向けた東京都地域医療構想調整会議において「高度急性期病院」としての位置づけが合意され、「紹介受診重点医療機関」にも指定されています。これを受け、急性期医療の中核としての責務を果たすべく、2025年は特に救急医療体制の強化に全力を注いできました。救急搬送の受け入れ体制を見直し、医師・看護師・コメディカル・事務職員が一丸となって応需体制の整備に取り組みました。その結果、8月以降は応

需率が飛躍的に向上し、地域の救急医療を支える重要な拠点としての役割を一層強めています。救急医療の充実は、地域住民の命と健康を守る最前線であり、当院の最重要課題の一つとして、今後も不断の努力を重ねていきます。

立川病院は「単なる総合病院」ではなく、「特徴ある役割を併せ持つ病院」としてはじめて存在価値があります。「がん医療の充実」はその柱の一つです。昨年4月には国の地域がん診療連携拠点病院に指定され、これまで以上に、がん専門病院では対応が困難な併存疾患を有する患者や、地域間の移動が困難な高齢のがん患者に対して、早期発見から緩和医療まで包括的に対応し、最良の医療を提供するよう努めています。さらに地域住民の皆様が、がんに対する正しい知識を持ち、早期発見・予防に積極的に取り組めるよう、がん教育の普及にも力を入れています。市民講座の開催や、学校・地域団体との連携による啓発活動を通じて、がんに対する理解を深める努力を続けています。医療の提供にとどまらず、地域全体でがんと向き合う環境づくりを推進することが、私たちの使命です。

高齢者人口の増加に伴い、認知症患者数の増加が深刻な社会問題となっています。当院は、地域拠点型認知症疾患医療センターとして、認知症の診断・治療および地域への啓発事業を中心に取り組んでいます。認知症抗体医薬の初回投与が可能な医療機関として治療にも力を入れるとともに、新規薬剤の治験にも積極的に取り組んでいます。

地域の皆様により一層貢献できる病院として広く認知いただくとともに、職員の意欲向上を図るため、従来の理念「質の高い、思いやりのある医療の実践」に加え、ミッション「地域の皆様が住み慣れた地域で安心して最新かつ適切な医療を受けられるよう、身近な総合病院として医療の質の向上に努める」、ビジョン「地域の皆様に親しまれ、信頼され、誇りとされる病院をつくる（立川病院ブランドの確立）」を追加策定しました。

さらに、職員の行動規範として、これまでの3つの信条Patient Centered Care（患者さん中心の医療）、Partnership（皆の協働で実践する医療）、Professionalism（高い専門性と倫理観に基づく医療）に加え、Pride（誇りをもった職業人による医療）、Passion（情熱をもって行う医療）を新たに掲げ、5つの信条（5つのP）として再構築しました。

職員一人ひとりが、地域の皆様に信頼され、誇りに思っていただける病院づくりに引き続き尽力し、「立川病院ブランドの確立」に向けて着実に歩みを進めていきます。

本年も変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

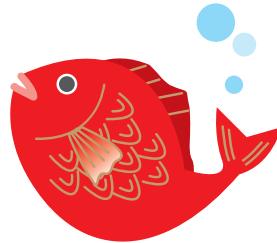
令和8年 元旦

各診療科部長 ご挨拶・紹介

循環器内科

新年あけましておめでとうございます。昨年は地域医療におけるご支援、誠にありがとうございました。より質の高い医療を提供できるよう、スタッフ一同尽力して参ります。今後とも、地域のかかりつけの先生方と密に連携し、患者さんにとって最善の治療を提供していきます。高齢化に伴い増加傾向である心不全は早期診断、早期介入が進行や重症化を避けるために重要です。来年度は特殊心筋症外来（アミロイドーシス、閉塞型肥大型心筋症）を開設予定です。これらの心筋症は著明な心肥大、心筋逸脱酵素陽性などがred fragです。その他労作性の息切れ、BNP高値などでお困りの患者さんなどもご紹介いただければ幸いです。どんな小さなことでも、どうぞお気軽にご相談ください。引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

循環器内科部長 影山 智己



呼吸器内科

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中はひとかたならぬ御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

当科は、地域密着かつ高度な専門性を発揮できる施設として地域医療に貢献することを目指し、日々の診療を行っています。常勤医師5名と防衛医科大学校からの非常勤医師2名の他、呼吸器外科や放射線診断科、放射線治療科等の関連各科と協力し、最新の医療を提供できるよう努めています。



また、慶應義塾大学関連病院・内科専門研修プログラム基幹施設として、若手教育に注力することが将来の地域医療貢献に直結するものと確信しています。

地域の皆様から安心と信頼が得られ、次世代においても継続して力を発揮できる施設となるべく精進して参ります。本年も御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

内科統括部長 黄 英文

糖尿病・内分泌代謝内科

あけましておめでとうございます。糖尿病・内分泌代謝内科は現在、常勤スタッフ4名（矢島 賢、杉山和俊、黒川安晴、漆原裕記）で診療にあたっております。入院による血

糖管理や薬物調整はもちろんのこと、患者支援センターの開設に伴い周術期血糖管理もより積極的に行っておりますので手術を検討されている場合は当院にご紹介ください。甲状腺や副腎などの内分泌疾患、二次性高血圧精査についても精査加療を行っております。3名が専門医を取得しておりますのでご相談、お困りのことがありましたら地域医療連携センターにご連絡ください。

糖尿病・内分泌代謝内科医長 矢島 賢



/// 脳神経内科

あけましておめでとうございます。脳神経内科では認知症、パーキンソン病、神経免疫疾患を中心に診療に当たっております。昨年4月から横浜みなと赤十字病院より神経内科専門医である丸子真奈美医師がスタッフとして加わり、日本神経学会教育施設に格上げされました。また、多数の紹介を頂き、早期のアルツハイマー病に対してレカネマブ・ドナネマブ治療を開始した患者様は140例を超えるまでになりました。アミロイドPETだけでなく、髄液検査による β アミロイド比やリン酸化タウ蛋白の測定にも対応していますのでお気軽にご紹介ください。今年も認知症や神経免疫疾患に対して続々と新規抗体医薬が導入され、神経内科治療の革命は続きます。神経内科専門医である服部と久住呂、丸子に加えて、後期研修医の斎藤で日常診療だけでなく、治験も頑張っていきたいと思います。東京都地域拠点型認知症疾患医療センターとしての活動も引き続き行なっています。今年も地域の方々のご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

脳神経内科部長兼東京都地域拠点型認知症疾患医療センター長 服部 英典



/// 腎臓内科・透析センター

腎臓内科

新年あけましておめでとうございます。

今年度腎臓内科は、常勤医3名体制のもと診療を行っております（二木功治、安田格、押田卓磨）。当科では、「検診異常などを契機とした腎疾患の拾い上げ、診断ならびに治療」、「高血圧症・電解質異常の原因精査、加療」、「急性腎障害・慢性腎臓病症例に対する原因精査・加療」、「末期腎不全患者様に対する腎代替療法の提示ならびに導入」など、あらゆる腎疾患を扱い精査加療を行っています。「立川CKDネットワーク」としての活動も継続しております。今年度は特に、腎生検などを要する腎疾患への積極的診断や治療の介入を目指すべく、先生方からの症例ご紹介を心からお待ち申し上げます。本年も引き続き、立川市ならびに周辺地域における腎臓診療の一翼を担うべく、努力していく所存であります。本年も引き続きのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

腎臓内科部長兼透析センター長 二木 功治

透析センター

新年あけましておめでとうございます。

透析センターは、腎臓内科医師、看護師、臨床工学技士など、多職種の協力のもと、当院におけるすべての血液浄化療法管理を担っております。外来ならびに入院全診療科患者様の血液透析管理を行っています。血液透析以外にも、多様な疾患に対して血漿交換などをはじめとするアフェレーシスを、他科と協力し扱います。腹膜透析の導入、管理も実施しております。エコーガイド下シャント血管拡張術も当科で実施し、当院導入の血液透析患者様について可能な範囲で、ブラッドアクセストラブルを対応しております。当院での入院を検討されている透析患者さま、合併症治療など急を要する患者様などおられましたら、ぜひ地域医療連携センターを経由の上、ご相談ください。

腎臓内科部長兼透析センター長 二木 功治

// 消化器内科

皆さま明けましておめでとうございます。昨年は皆様の多大なるご好意により多数の患者さんをご紹介頂き感謝しております。本年も昨年以上に宜しくお願ひ申し上げます。

さて、昨年は百花繚乱の状態で、若手専攻医の先生と、彼らを指導する立場の先生との連携がうまく連動し、想像以上の成果をあげることができました。

本年も多少の人事異動がございますが、この勢いを止めることなく、走り切りたいと思います。

最後に、今年は地域の先生方が患者さんを紹介しようと思った時に、一番に「立川病院」が思い浮かぶような診療を実践していきたいと思います。何卒よろしくお願ひいたします。



消化器内科部長 古宮 売一

// 膜原病・リウマチ内科

新年明けましておめでとうございます。連携医の先生方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は多くの患者様を紹介いただき誠にありがとうございました。

膜原病・リウマチ内科は、今泉ちひろ医師（金曜日、非常勤）、川井雅敏医師（木曜日、非常勤）2名の体制で外来診療を行っています。大学病院勤務の専門医が診療を行っていますので、受診希望の患者様がいらっしゃいましたら、地域医療連携センターまでご連絡いただければ幸いです。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

内科統括部長 黄 英文

// 血液内科

あけましておめでとうございます。連携医の先生方には大変お世話になり御礼申し上げます。

血液内科は今年度、常勤医師7名、非常勤医師1名の体制で診療を行っており、多くの患者様を紹介いただいております。血液内科の診療は、まさに日進月歩の発展著しい領域です。これからも最新の治療で地域の患者様に貢献できますよう、引き続き充実した診療体制の構築に努めて参ります。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



血液内科部長 外山 高朗

小児科

新年あけましておめでとうございます。

連携医の先生におかれましては日々ご紹介とご指導を頂き有難うございます。

小児科は、常勤医3名と慶應義塾大学小児科、防衛医大、都立小児総合医療センターの非常勤医で診療しております。外来では神経、心臓、アレルギー、腎臓、内分泌代謝の各専門外来に加え、新たに臨床遺伝専門医である山田茉未子医長による、出生前から成人が対象で全診療科対応の遺伝カウンセリング外来を開設いたしました。病床ではこれまで通り、当院周産期部門の新生児ケアと、お預かりまたは付き添いも可能な小児病室での検査（アレルギー経口食物負荷試験、脳波、MRIなど）と入院治療を継続いたします。本年も立川地域のお子さんの支えとなるべく努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

小児科部長 荒巻 恵



血管外科

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

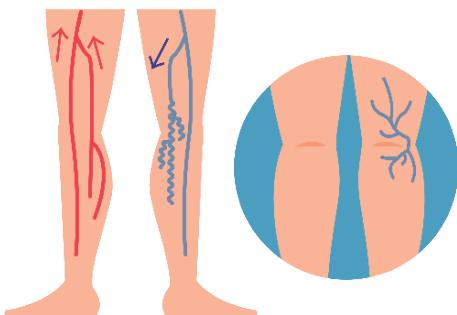
旧年中は、当科の診療に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

当院血管外科では、末梢動脈疾患、静脈疾患、リンパ還流障害に伴うリンパ浮腫、血液透析用内シャント作成など、幅広い血管疾患の診療を行っております。特に下肢静脈瘤に関しては、静脈瘤専門外来を開設し、迅速な対応が可能な体制を整えております。術後すぐに足のだるさや皮膚炎が改善されるケースも多く、患者様から大変ご好評をいただいております。日帰り手術にも対応しており、安心してご紹介いただける環境を整っております。

本年も、迅速かつ丁寧な診療を心がけ、地域の医療機関の皆様との連携を一層深めながら、患者様にとって最善の医療を提供できるよう努めてまいります。

今後とも変わらぬご支援・ご指導のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

血管外科部長 秋山 芳伸



乳腺外科

新年あけましておめでとうございます。立川病院乳腺外科は年間100件程度の乳癌手術をしています。乳癌の治療は標準治療に基づき、患者さん個々の状況に合わせてガイドラインに沿った形の治療方針を提示し、患者さんと十分に相談をしながら治療方針を決めています。また乳房温存手術が出来ない場合には、要望に応じ形成外科と協力しながら同時再建、二期的再建なども提案しています。治療中の患者さんの手術や抗癌剤、他の治療に対しての不安や恐怖を軽減出来るように心掛けながら診療にあたっています。乳腺外科を本年もよろしくお願ひ申し上げます。

乳腺外科部長 服部 裕昭

// 消化器外科

明けましておめでとうございます。連携医の先生方には平素より大変お世話になり、また多くの患者さんをご紹介いただき心より感謝申し上げます。

消化器外科は、片井均病院長・似鳥修弘消化器外科部長のもと、大腸肛門外科専門の矢作雅史医長、上部消化管疾患専門の中村哲也医長、肝胆脾外科学会高度技能専門医の東尚伸医員、専攻医の勝又佳織医員・岩渕拓哉医員の7名体制となっています。

当院では、昨年の胃がん手術は全例、大腸がん手術は9割以上が腹腔鏡/ロボット手術となっています。大腸がんの手術症例は年々増加しており年間約100例となっています。また、多臓器合併切除や肝胆脾疾患などの高難度手術も可能となっています。良性疾患に対する腹腔鏡手術も多く、鼠径ヘルニア・胆石症・腹壁瘢痕ヘルニアに対する低侵襲手術eTEP・直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術・腸閉塞に対する腹腔鏡下瘻着剥離術など対応疾患は多岐に渡ります。

それぞれの医師が高度なスキルを持っていると自負しており、患者さんから通院してよかったです、地域の先生方から紹介してよかったですと思っていただけるよう一丸となって地域へ貢献していきたいと思っております。本年もご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

消化器外科部長 似鳥 修弘

// 呼吸器外科

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、日頃より貴重な患者様をご紹介いただき、あらためて感謝申し上げます。

当科ですが、昨年4月に櫻田医師が着任し、常勤3名（山本達也（部長）、田中浩登（医長）、櫻田明久（医員））、非常勤1名（中井猛斗）の体制で臨床にあたっています。昨年は原発性肺癌や転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの患者様に、130例余の手術を実施しました。ダビンチによるロボット手術も安定した実績を積み重ねており、その低侵襲かつ精緻な手術の結果、肺癌の標準葉切除手術でも術後3-4日ほどで無理なく社会復帰が可能なまでになっています。最近は呼吸器内科や放射線診断科、放射線治療科などの緊密な連携のもと、免疫化学療法や化学放射線療法を利用した最新の周術期治療を導入し、従来とは一線を画す治療成績を実現できています。

私どもは時代や技術の変化にしなやかに対応し、医療安全や患者様のニーズに細かく気を配りながら、これからも「常に前へ」をモットーに地域の医療に貢献できるよう努力する所存です。

本年も、引き続きご支援とご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

呼吸器外科部長 山本 達也



左から櫻田明久、山本達也、田中浩登、中井猛斗

// 整形外科

あけましておめでとうございます。平素の医療連携において大変感謝申し上げます。

紹介患者のスムーズな受け入れを意識しておりますが、外傷など緊急性のある症例において、対応が不十分との指摘がありました。解決策を思案しておりますが、必要時、医師と直接相談いただけますと幸いです。引き続き常勤スタッフ9名と非常勤3名で隙の無い診療と良い治療成績を維持し、患者と連携の先生方の期待を裏切らないように今年も頑張ります。

整形外科部長 鈴木 穎寿



// 形成外科

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

現在、形成外科は常勤医2名体制（濱田 茉梨子、福地 玲）で、全身麻酔、局所麻酔、外来診療を行っております。手術では、続発性リンパ浮腫（乳癌・子宮癌・卵巣癌・前立腺癌などの悪性腫瘍でリンパ節を切除したり、放射線治療でリンパの通り道がダメージを受けて生じる上肢や下肢の浮腫）、原発性リンパ浮腫（もともとリンパ管の機能が弱くて生じる四肢の浮腫）、まぶたの疾患（眼瞼下垂症や上眼瞼皮膚弛緩症、睫毛内反症、下眼瞼内反など）、乳房再建手術、その他の悪性腫瘍切除後の欠損部位に対する再建手術、良性腫瘍（脂肪腫など）、顔面骨骨折（鼻骨骨折、頬骨骨折、眼窩底骨折など）、合（多）趾症などを中心に積極的に行っております。受診希望の患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介のほど何卒よろしくお願ひいたします。



形成外科分野の対象疾患は多岐にわたります。外科的治療によりQOLの向上に貢献することを目的とし、患者さん一人一人の精神的負担の軽減や社会復帰を目指し、診療にあたります。

形成外科医長 濱田 茉梨子

// リハビリテーション科

明けましておめでとうございます。

リハビリテーション科は、入院患者さまが早期回復し、元の生活に戻れることを第一に訓練対応しています。摂食嚥下の評価やサポート、退院後の生活上の助言やホームプログラム指導等も重要な関わりとなっています。外来診療においては、装具や車いすの相談、診断書作成や上肢下肢痙攣に対するボツリヌス毒素注射の診療を行っています。外来で摂食嚥下機能評価のための嚥下造影検査・訓練指導も対応していますので、該当する患者様がいましたらご紹介頂ければ幸いです。

当科スタッフ一同、今年もより良いリハビリテーション医療の提供に努めて参ります。本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

リハビリテーション科部長 黒川 真希子

// 眼科

新年明けましておめでとうございます。眼科は常勤4名の2診体制で診療を行っております。昨年は白内障・緑内障・網膜硝子体手術を中心に、過去最高となる1,000件を超える手術を安全に施行することができました。私の専門である網膜硝子体領域では、硝子体内注射が必要な患者さんも一段と増えており、最新薬剤を積極的に取り入れながら、適切な治療提供に努めています。本年も地域の先生方との連携を大切にし、必要な治療を必要なタイミングで提供できるよう、引き続き努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



眼科部長 内田 敦郎

// 脳神経外科

あけましておめでとうございます。先生方におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年はてんかん外科治療も順調に件数が増え、良好な成績をおさめています。本年も引き続き関係各科と協力しながら、地域のてんかん診療の底上げに尽力して参ります。また一般の脳神経外科疾患についても、乳幼児から高齢者までこれまでと変わらず対応して参ります。4月からは新たにアスリート・パラアスリート外来を新設予定です。地域の先生方に更なるご協力を願いいたしまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

脳神経外科部長
てんかんニューロモデュレーションセンター長
杉山 一郎



令和7年第25回立川病院地域連携懇話会にて

左：杉山、右：石原恵理子（医員）

産婦人科

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年中は、地域の皆さま方に多大なるご支援とご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

婦人科では、悪性腫瘍の手術・放射線・薬物療法はもちろん、アピアランスケア、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング、支持療法を網羅し、北多摩西部での期待に応えるべく尽力しております。良性腫瘍や骨盤臓器脱では、腹腔鏡手術、ロボット手術、vNOTESを取り扱い、更年期を含む女性のライフコースを意識した診療に取り組んでいます。

産科では、昨年NICU一時休止となったものの、小児科医師が徐々に増えてきており、精神疾患合併妊娠や産後ケアを包括したシームレスな診療・支援の継続に努めております。

今後の課題としては、東京都がん診療連携拠点病院として求められるゲノム医療やAYA世代支援のさらなる充実、また周産期連携病院として重要性が高まっているメンタルヘルスケア支援の強化や災害対策の連携など、地域の皆様と協力すべき課題が山積しております。先生方と顔の見える関係性の中で、これらの課題に共に取り組んでいただけたら幸甚に存じます。

今後も女性の生涯とそのご家族に寄り添いながら、より安全で質の高い医療の提供に努めて参ります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

産婦人科主任部長 平尾 薫丸



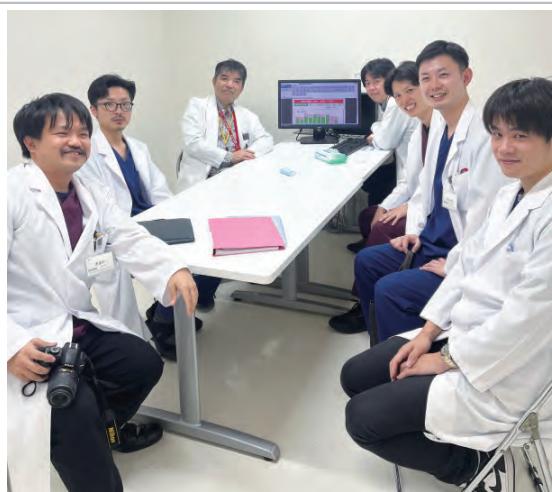
精神神経科

明けましておめでとうございます。

日本総合病院精神医学会の昨年の調査によれば、全国のほとんどの有床総合病院精神科の病床利用率は60%を割り込んでおり、軒並み存続の危機を迎えております。都内の大学病院も例外ではないそうです。

そんな中、立川病院精神神経科の病床利用率は常時90%を超えて推移し、新病棟運用開始以来初の満床も達成しました。これは入院患者さんをご紹介いただく地域の皆様の賜物です。今年もお引き立ていただきますようお願い申し上げます。

精神神経科部長 桑原 達郎



皮膚科

新年あけましておめでとうございます。

当科は皮膚科としては充実した4人体制を保っており、重症感染症などの緊急対応、手術全般、皮膚悪性腫瘍の集学的治療等を積極的に行ってています。近年皮膚科領域の全身療法の進歩は目覚ましく、乾癬、

アトピー性皮膚炎、円形脱毛症、天疱瘡等などへの最新治療も可能です。どんな皮膚疾

患でも患者さんが納得して治療に前向きになれるよう、今年も科内で切磋琢磨し、治療に携わらせていただきます。

本年も立川病院皮膚科をよろしくお願い致します。

皮膚科部長 稲積 豊子



耳鼻咽喉科・頭頸部外科

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は連携医の皆様には大変お世話になりました。

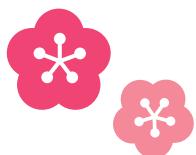
耳鼻咽喉科・頭頸部外科の常勤医は、羽生昇部長（専門：頭頸部腫瘍）、富永健裕医長（専門：喉頭）、石川雄惟医員（専門：鼻副鼻腔）、奥平雄祐医員の4人体制となっております。

外来診療は、2~3診で行っており、補聴器相談、身体障害認定（難聴）、好酸球性副鼻腔炎の指定難病にも対応しております。



手術は耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般（口蓋扁桃摘出、鼻副鼻腔手術、耳下腺・顎下腺・甲状腺良性悪性腫瘍、咽喉頭内視鏡手術、声帯顕微鏡手術、誤嚥防止手術、鼓膜チューブ挿入術、舌咽喉頭癌手術）を扱っております。病診連携をさらに充実させ、患者様の診療情報共有を図りたいと考えておりますので、本年もどうぞよろしくご指導をお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 羽生 昇



泌尿器科

新年あけましておめでとうございます。旧年中は連携医の皆様に大変お世話になりありがとうございました。

おかげさまで、昨年は明瀬祐史、香久山裕史、久富木原良平、峰崎敦大（4～9月）、木田賢吾（10～4月）による常勤4名、および浅沼宏、田中伸之による非常勤2名で、多くの患者様の診療を行うことができました。

本年は、立川病院と連携医の皆様との一体感をさらに高めることを目指します。泌尿器科としてそのために尽力する所存ですので、何卒ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

泌尿器科部長 明瀬 祐史



緩和ケア科

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、当科の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

緩和ケア科では、緩和ケアチームとして外来・入院の両面で主科チームと連携し、患者様・ご家族の困りごとの解決に向けた支援を行っております。また、緩和ケアの普及・啓発を目的に、院内外での研修や広報活動にも力を入れております。

昨年は、院外から講師・参加者をお招きし、実りある緩和ケア研修会を開催することができました。さらに、ホスピス緩和ケア週間には、来院された方々が手書きのメッセージを貼り付ける「ホープツリー」や、栄養補助食品の試食を含めた展示を通じて、緩和ケアへの理解を深める機会を設けることができました。

本年も、地域の皆様と協働しながら、患者様とご家族に寄り添う緩和ケアの推進に努めてまいります。

引き続きご支援・ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

緩和ケア科部長 秋山 芳伸



// 放射線治療科

新年あけましておめでとうございます。

近年のがん診療では、病気を治す事のみならず、治療中の生活や治療後の副作用などの考慮も求められています。もともと侵襲が少ないのが放射線治療の特色ですが、当院ではIMRTと呼ばれる最新の照射法を用いて、従来にも増して更に副作用の少ない治療を行っています。当科では院内・院外からの多くの患者さんが来院して放射線治療を行っており、がんが消えたり、辛い症状が緩和されたりと、様々な効果が得られています。

本年もスタッフ一丸となり、主治医の先生方と連携しながら患者さんにとって最適な医療を提供してゆきたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

放射線治療科部長 岱木 章二



// 放射線診断科

新年あけましておめでとうございます。

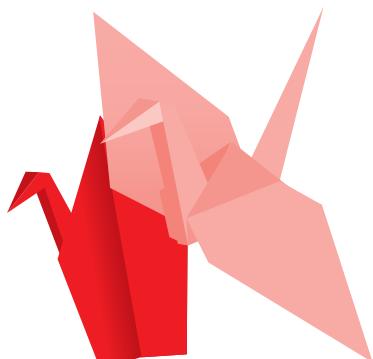
放射線診断科は現在常勤医4名の体制で診療を行っております。

昨年は1.5テスラMRI装置を更新し、GEヘルスケア製 SIGNA Voyagerを導入し、また3テスラ装置についても大規模アップデートを行いました。どちらもディープラーニングを用いた技術が導入され、また検査時に患者さんに装着するコイルもAIR Coilと呼ばれる柔軟な布団のようなものとなり、検査の準備がより簡便となりました。検査時間は従来の装置に比べ2割程度短縮し、これにより検査の予約枠数を増やし、また緊急検査にも迅速に対応が可能となりました。MRIの更新前は予約を取るのに2週間以上お待たせすることが常態化しておりましたが、更新後は1~3日程度と大幅に短縮し、ご紹介いただいた患者さんの検査を速やかに行い、治療に繋げることができるようになりました。

今後も先生方のお役に立てるように努めてまいりますので、本年もよろしくお願ひいたします。

放射線診断科部長 岡村 哲平

// 救急科



新年あけましておめでとうございます。

救急科は通常診療時間内の救急車搬入患者および重症かつ緊急を要する救急患者の初期診療にあたっています。医療機関から専門治療目的で当院の地域医療連携センターにご紹介いただいた救急患者については、当該診療科の救急担当医を中心に診療しています。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

救急科医長 上倉 英恵

// 齧科口腔外科

新年明けましておめでとうございます。

当院齧科口腔外科は常勤歯科医師（部長 木津英樹、医長 白田 慎、斎藤哲哉、永田香織）の4名、また非常勤歯科医師として慶應病院齧科口腔外科より派遣して頂いており、歯科衛生士は常勤5名で診療を行っていります。

初診予約制となっております。当院外来予約センター（042-523-3865）で予約をとり受診をお願いしています。手術の予約が混んでいるためお待ちいただくことがあります、今後混雑改善のため対策を予定しています。なお緊急性がある場合には齧科口腔外科外来に直接お電話下さい。当科は埋伏歯抜歯、歯根端切除術、インプラント治療、顎変形症手術などの口腔外科手術を専門的に行っております。入院・全身麻酔による手術の対応また困難な抜歯や不安や痛みに心配な方の静脈内鎮静下の手術を1泊2日入院で行っています。

今後も安全で安心な診療ができるようスタッフ一丸となり心がけて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

齧科口腔外科部長 木津 英樹



// 内視鏡科・内視鏡センター

謹啓

寒冷の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、国家公務員共済組合連合会立川病院内視鏡センターの業務につきまして、温かいご理解と多大なるご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、ご紹介いただいた多くの患者様に対し、地域の医療機関の皆様と連携し、迅速かつ正確な内視鏡診療を提供することができました。これもひとえに、日頃からの密な連携と、きめ細やかな情報共有のおかげと深く感謝しております。

さて、輝かしい新春を迎え、当センター職員一同、気持ちを新たにしております。

本年も、患者様にとってより安全で質の高い内視鏡検査・治療を提供できるよう、技術の向上と設備の充実に努めてまいります。また、地域の皆様の健康維持に貢献すべく、医療連携を一層強化し、皆様との信頼関係を深めていきたいと存じます。

皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

内視鏡センター長 大森 泰



// 麻酔科

謹んで新春をお祝い申し上げます。麻酔科は手術室での麻酔業務、患者支援センターでの術前診察業務、術後疼痛管理チーム、緩和ケアチームなどの業務を行っています。また新たに2026年より無痛分娩を開始する予定です。

手術室での麻酔業務として2024年度は3,687件の手術を麻酔科管理で行いました。また同年度の総手術件数は6,149件でした。最近ではロボット支援下手術が増加し、現在は立川病院では呼吸器外科、消化器外科（胃・大腸）、婦人科、泌尿器科でロボット支援下手術を行っています。

麻酔科の体制は常勤医8名で、うち麻酔科専門医が7名の充実した体制となっています。

患者支援センターでは麻酔科医が入院前に患者状態の評価を行い、必要な検査や他科コンサルトを早期に行うことで入院期間の短縮を図っています。

術後疼痛管理チームでは、手術後の患者さんに生じる痛みや吐き気などの不快な症状に早期に対応しています。

緩和ケアチームでは各科の患者さんの緩和ケアに携わるとともに立川市内の小中学校でがん教育の講演活動を行っています。

皆様から御紹介頂いた患者さんに安全な手術環境を速やかに提供させて頂くことで、皆様のお役に立ちたいと思っております。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

麻酔科部長 羽鳥 英樹



麻酔科医と手術室スタッフの仲間たち

// 臨床・教育研修センター

新年あけましておめでとうございます。旧年中は多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当院では現在、14名（基幹型10名・協力型4名）の初期研修医が研鑽に励んでおります。昨年8月の2026年度採用試験では、5名の募集に対し過去最多の60名の応募があり、11年連続でマッチング率100%を達成いたしました。地域の先生方のご協力に、改めて深謝申し上げます。

当院では、患者に寄り添う全人的医療の実践力、高い倫理観に基づく判断力、自ら学び続ける力の育成を教育の柱とし、社会に貢献できる医師の育成に努めております。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



臨床・教育研修センター長 森谷 和徳

// 地域医療連携センター

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より、地域医療の発展と患者様のための医療連携に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年も、先生方の温かいご支援とご協力により、地域の皆様が安心して医療を受けられる環境を築くことができました。

本年も、地域医療のさらなる充実を目指し、先生方と共に歩みを進めてまいります。患者様一人ひとりに寄り添った医療を提供するため、引き続きご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、先生方のご健康とご多幸、そして益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

地域医療連携センター一同



報告

立川病院地域医療連携懇話会が開催されました

昨年11月18日（火）19時より、ホテルエミシア東京立川において「第25回立川病院地域医療連携懇話会」が開催されましたので、報告させて頂きます。今年度も着座形式で西洋のコース料理を堪能しながら、様々な職種の参加者の方々との交流の場となりました。今回の懇話会は、出席者229名（各市医師会長を中心とする客員医員の先生やそのスタッフの皆様など159名、当院職員70名）、歓談を中心とした会をするように進行させていただきました。終始和やかな2時間となりました。閉会の挨拶で地域医療連携センター部長の秋山より、患者・家族、病院と地域の医療者が同じ方向を向いて療養生活が進められること、お互いを知ることを大切にして、地域全体で支え合う医療体制の構築に向けて取り組んでいく旨が示されました。参加者の皆様から頂いたアンケート結果からも、「多くの方々との交流ができるよかったです」「懇親の時間を長くとっていただきありがとうございました」など回答を頂いた皆さまから「良かった」との高評価を頂きました。併せて寄せられた貴重なご意見なども参考にしながら、次回も皆様が有意義な懇親の場となるように努めて参ります。

地域医療連携センター

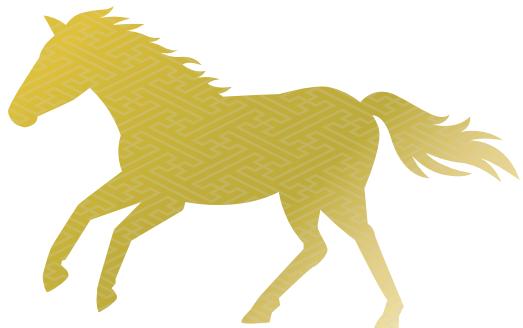




謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願ひ
いたします

立川病院職員一同



～年賀状によるご挨拶について～



当院では、昨今の社会情勢や自然環境への配慮等の観点から、本年より年賀状によるご挨拶を控えさせていただくこととしました。

皆様方におかれましては、何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和8年1月1日（年3回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22
TEL : 042-523-3131 FAX : 042-522-5784
ホームページアドレス : <http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL : 042-524-2438
FAX : 042-523-3160

